

芸術（書道）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた、漢字仮名交じりの書の授業の実践

(2) 研究のねらい

「漢字仮名交じりの書」において、生徒個々が制作意図に基づいた表現方法を工夫することができる授業づくりを目指す。そのために、「指導と評価の一体化」の視点を踏まえ、学習の過程や試作を評価することで主体的に学習に取り組む態度を見取ること、及び、個別に助言を行うことにより、生徒の自己調整能力の向上を図る授業実践を研究する。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：書道 I

イ 単元名：漢字仮名交じりの書 ～学校の魅力を書で伝える～

ウ 単元の目標：

【A 表現】

- ・用筆、運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。【知識】
- ・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。【知識】
- ・目的や用途に即して効果的に表現する技能を身に付ける。【技能】
- ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の学習活動に主体的に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

【B 鑑賞】

- ・用筆、運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。【知識】
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。【知識】
- ・創作作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・書の高さや美しさを味わい、作品や書の価値とその根拠について考えながら、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【共通事項】 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 【A 表現】 ①名筆や現代の書の表現と用筆・運筆とのかわりについて理解している。(知識) ②目的や用途に即して効果的に表現する技能を身に付けている。(技能) 【B 鑑賞】 ③線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解している。	【A 表現】 ①漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 【B 鑑賞】 ②創造された作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。	【A 表現】 ①自身の表現の意図に基づく表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 【B 鑑賞】 ②書の高さや美しさを味わい、作品や書の価値とその根拠について考えながら、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画

○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1 ・ 2	<p>○漢字仮名交じりの書の分野について理解する。</p> <p>○単元全体の学習内容を確認する。</p> <p>○作例を鑑賞し、線質や字形、構成等の工夫による印象の違い、効果について考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○グループで意見交換を行う。</p> <p>○「雨が降っている(た)」ということばを題材とし、ワークシートに沿って制作意図を明確にする。</p> <p>毛筆で作品を書く。</p> <p>・重点事項:字形、字の大きさの変化、構成、線質について工夫し、その結果どのような印象の作品になったか考える。</p> <p>○作品をグループで共有し、雨の強さで並べ替えて意見交換を行う。</p> <p>○自分の作品とグループ員の作品を鑑賞して気が付いたことをワークシートにまとめる。</p> <p>○次回以降の学習活動について確認し、学校をPRする写真と撰文の課題について理解する。(写真はGoogle Classroomを使用して提出する。撰文はワークシートに沿って取り組む。)</p> <p>・学校のウェブサイトなどの参考資料や、学校をPRする際のテーマの具体例を挙げる。(部活動、環境、行事など)</p>	○ ●	●	●	<p>【知①:評価のポイント】ワークシートから現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解できているかを見取る。</p> <p>【知②:評価のポイント】ワークシートと完成した作品から目的に即して表現する技能の定着度を見取る。</p> <p>【思①:評価のポイント】ワークシートと完成した作品から工夫した点を見取る。</p> <p>【主②:評価のポイント】ワークシートの記述から鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしているかを見取る。</p>
2	3 ・ 4	<p>○考えてきたキャッチコピーとワークシートに基づいて、毛筆で半紙に試作を行う。</p> <p>○試作と同時にワークシートに沿って作品の構想を練り、草稿を完成させる。</p> <p>○半紙作品を一枚完成させる。</p>	○	●	●	<p>【思①:評価のポイント】ワークシートと草稿から工夫した点を見取る。</p> <p>【主①:評価のポイント】ワークシートの記述から粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを見取る。</p> <p>【共通事項:評価のポイント】ワークシートと完成した作品から書の表現性とその表現効果との関わりを理解しているかを見取る。</p>
3	5 ・ 6	<p>○前時で書いた半紙作品の振り返りをワークシートに沿って行う。</p> <p>・重点項目:漢字と平仮名の調和について確認しながら振り返りを行う。</p> <p>○線質の変化について毛筆で試し書きをし、前時の作品と比べる。どのように作品の印象が変わったかをワークシートに記述する。</p> <p>○漢字と平仮名の調和や構成、線質について再検討し、改善点をワークシートに記入する。</p> <p>○毛筆で練習を重ね、半紙作品を一枚提出する。写真を撮影してGoogle Classroomに提出し、Google Jamboardにはりつける。</p>		●	●	<p>【思①:評価のポイント】ワークシートと作品から工夫した点を見取る。</p> <p>【主①:評価のポイント】ワークシートの記述から粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを見取る。</p>

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
4	7 ・ 8	<p>○前時で制作した半紙作品の振り返りをワークシートに沿って行う。</p> <p>○グループで相互鑑賞を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目：意図を明確にし、ワークシートにそって発表する。 ・Google Jamboardを使用し、コメントをつける。 <p>○相互鑑賞に基づいて作品を見直し、改善点をワークシートにまとめる。</p> <p>○毛筆の練習を重ね、半紙に清書し提出する。清書作品の写真を撮影してGoogle Classroomに提出する。</p> <p>○改善した点とそれによる作品の変容についてワークシートにまとめる。</p>	○	○	○	<p>○【主①：評価のポイント】ワークシートの記述から粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを見取る。</p> <p>【知②：評価のポイント】完成した作品から目的に即して表現する技能の定着度を見取る。</p> <p>【思①：評価のポイント】ワークシートと完成した作品から工夫した点を見取る。</p> <p>【指導上のポイント】次時の学習活動に向けて、生徒が提出した半紙をスキャナーで取り込みPDF化し、Google共有ドライブにアップロードしておく。</p>
5	9 ・ 10	<p>○Googleスライドを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次で書いた作品写真、清書作品を使用してスライド一枚目を作成する。 ・PDF化された清書作品と、学校をPRする写真を使用してスライド二枚目を制作する。 <p>○スライドを使用して、グループで発表を行う。イメージと、それを表現するための工夫点について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞者はワークシートにコメント等を記入する。 ・クラスの生徒の作品を鑑賞して自らの作品を振り返り、考えたことをワークシートに記入する。 <p>○スライドはGoogle共有ドライブで提出する。</p>	○	○	○	<p>【指導上のポイント】スライド一枚目は、3次の作品と清書作品との比較を行うために制作する。</p> <p>【知③：評価のポイント】ワークシートから線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解できているかを見取る。</p> <p>【思②：評価のポイント】鑑賞のワークシートから作品の良さや工夫点を味わい捉えているかを見取る。</p> <p>【主②：評価のポイント】作品や書の価値とその根拠について考えながら、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

カ 授業実践例 (7・8時間目/10時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)		評価の観点(評価方法)
導入	<p>○前時で制作した半紙作品の振り返りをワークシートに沿って行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージと工夫した点等を振り返り記入する。 	
展開 I	<p>○グループで相互鑑賞を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点項目：イメージを明確にし、ワークシートに沿って行う。 ・全員が順に発表する。 ・発表を聞いた後、Google Jamboardを使用し、グループ員の作品に付箋でコメントをつける。 <p>○相互鑑賞に基づいて作品を見直し、改善点をワークシートにまとめる。</p>	<p>【主①】ワークシートの記述から粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを見取る。</p>

	学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
展開Ⅱ	○毛筆の練習を重ね、半紙に清書し提出する。清書作品の写真を撮影してGoogle Classroomに提出する。	【知②】 完成した作品から目的に即して表現する技能の定着度を見取る。
まとめ	○改善した点とそれによる作品の変容についてワークシートにまとめる。 【指導上の留意点】 生徒が提出した清書作品をスキャナーで取り込みPDF化し、Google共有ドライブにアップロードする。PDFは次時でスライドを制作する際に使用する。	【思①】 ワークシートと完成した作品から工夫した点を見取る。

研究実施校：神奈川県立秦野曾屋高等学校(全日制)
 実施日：令和5年10月26日(木)
 授業担当者：茂木 彩華 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫

本研究は、「生徒個々が制作意図に基づいた表現方法を工夫することができる授業づくり」を目指すことを主たるねらいとしている。そのために、「指導と評価の一体化」の視点を踏まえ、学習の過程や試作を評価することで主体的に学習に取り組む態度を見取るとともに、個別に助言を行うことにより、生徒の自己調整能力の向上を図った。

まず、生徒が制作意図(イメージ)を明確に持つために、生徒の生活に寄り添った身近でイメージを持ちやすいテーマ設定について検討を行った。今回は「自身の通う高校の魅力を伝える書」をテーマとし、自ら校内で写真を撮影して書作品と写真を合わせたポスターを制作することとした。また、「自己調整能力の向上」を図るために授業ごとに振り返りをワークシートへ記入し、指導者がそれを見取った。生徒の思考の過程や定着の程度を見取ること、生徒に対する言葉掛けが効果的になり、さらに生徒が課題意識を持つことが期待される。以下、研究授業にあたる7・8時間目を中心に工夫点とその結果について述べる。

(7) 前時の作品鑑賞

a 実践内容

本研究では、授業のはじめに自己の作品の鑑賞と振り返りを行い、次に相互鑑賞で他者の意見を参考に考えるよう指導した(図1)。この鑑賞活動を通して改善点を考え、清書を行い自己評価する過程を言語化することで生徒が自己の課題を意識し、主体的に学ぶ姿勢が身に付くと考えた。

自己の作品の鑑賞と振り返りでは、線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解し鑑賞できているかを見取ること、元々持っていた作品のイメージに立ち返ることをねらいとした。以下は生徒の振り返りの記入例である。

*笑顔の写真を選んだから、平仮名に丸みをもたせてやわらかい雰囲気にした。

*かっこよくというイメージを、墨は濃いめで穂先から鋭く入ることで表現した。

上記は、作品のイメージと工夫点を、線質と関連付けて考えられている例である。この振り返り活動に入る前に、授業者が前時の復習として特に「漢字と仮名の調和」に

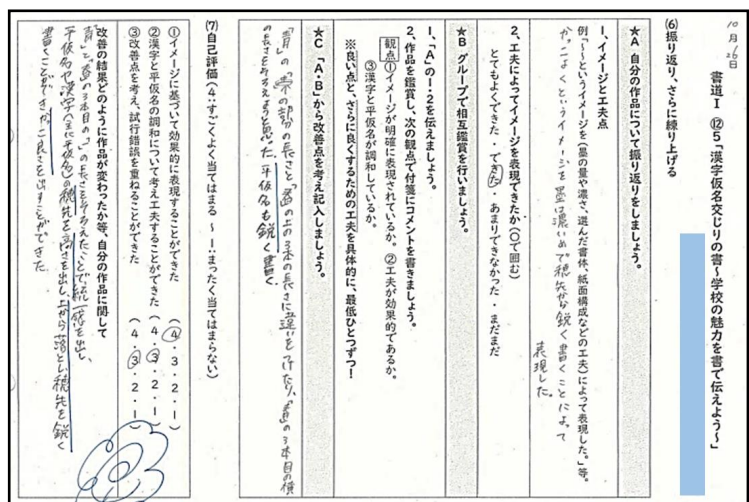


図1 ワークシート5と生徒の記入例

(図1のワークシートは、総合教育センターウェブページにてダウンロードできます。)

ついて触れることがポイントである。

相互鑑賞にはGoogle Jamboard(以下「Jamboard」)を使用した(図2)。「付箋」機能を使用して作品にコメントを行う。「良い点」をピンクの付箋、「さらに良くするための工夫」を黄色の付箋に色分けをし、どの生徒にも扱いやすいJamboardを目指した。

また、本校では常時班の形に机を組んで授業を行っており、1～3次で意見交換を行う際はこの常時班でグループワークを行った。ただし、4次の学習は平常時とは異なる編成で4名の班を組んで活動した。いつもと異なるグループ員から違った視点の意見をもらおうねらいである。5次では平常時の班に戻り、4次を経てどのように作品が変わったのかを報告し合うという流れをつくった。グループ員を4名に設定したのは、ペアワーク等少数の人数ではなく、なるべく広く意見をもらえるようにしたかったこと、意見交換を適切な人数で行い効率化することにより清書時間を確保するためである。

b 効果

Jamboardを使用して鑑賞を行う利点は、グループ員だけでなくクラス全員の作品を共有しやすい点、保存したデータを容易に見ることができる点等が挙げられる。また、紙の付箋よりも編集しやすいため、紙の付箋でコメントを記入した時よりも文章の量が多くなった。以下は生徒のコメント内容の例である。

* 鋭いところがより力強さを表現していて良いと思った。

* “僕”(という字)に特徴的な起筆が見られるので漢字全体に起筆を意識すると平仮名との調和がとれると思います。

* 線を丸い感じにしているところがやわらかさとか優しい感じが表れていてすごくいいと思う。

これらの例のように線質とイメージを関連付けて鑑賞を行うことができている生徒がいたのが成果の一つである。さらに、他者の作品を丁寧に鑑賞する貴重な機会となったと考える。

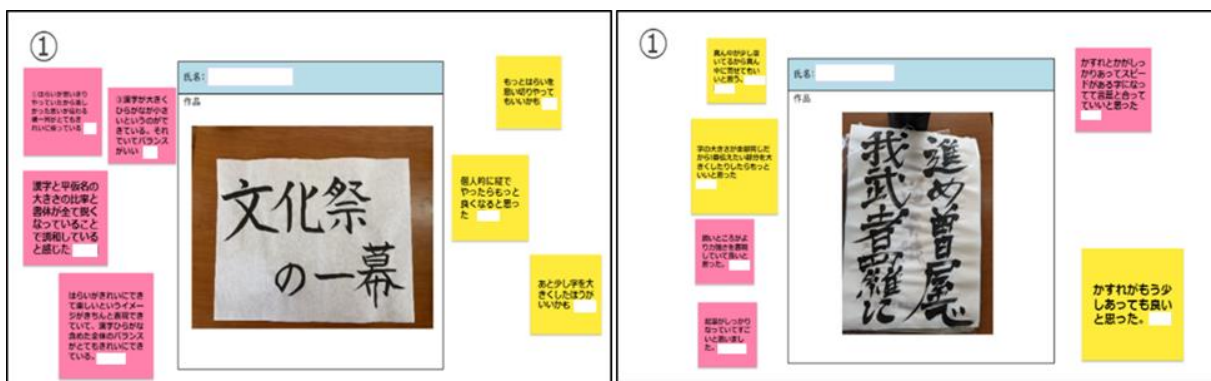


図2 Google Jamboardと生徒の記入例

c 改善すべき点

まず、付箋のコメントについて、特に黄色い付箋の「さらに良くするための工夫」が書きづらいとの声が聞かれた。付箋に何を書くと良いかがわかりやすくなるように、具体例をJamboardにあらかじめ貼っておくなどの工夫が必要である。研究協議では、意見を出しにくいときに「私ならこうする」という風に書かせると良いのではないか、との助言を得た。

次に、相互鑑賞において付箋の内容をさらに深くするために、授業者が線質について触れることが必要であったと考える。今回これが不足していたため、「調和のとれた字、バランスが良い」「漢字の大きさが同じくらいでバランスがいい」など、曖昧なコメントや造型性に偏ったコメントも少なくなかった。

「漢字と仮名の調和した線質」は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説芸術編』「A表現」「(1)漢字仮名交じりの書」「ウ 技能」における育成すべき資質・能力の項目として挙げられている。主に用筆・運筆における「運動性」や律動性・リズムと密接に関連しており、表現効果や風趣へつながる重要な要素である。「漢字と仮名の調和した線質」の学習が不十分だと、生徒の意識は構成や線の太さなどの目に見えやすい造型性に偏ってしまう。本単元における線質の学習は、書の表現性を造型性のみに留まらずさらに深い学びにつなげるために不可欠な要素であった。

最後に、ICTを活用した鑑賞に関しては多くの利点を実感したが、実物を使った鑑賞との使い分けが課題となった。Jamboardの作品写真を鑑賞していた生徒が、他の生徒に「こっつて実物はかすれてたんだっけ?」と質問していたのである。生徒は画像ではなく実物を見ながら鑑賞したかったので

はないかと考えられる。芸術作品の鑑賞において実物の持つ力は非常に大きい。実物を見て話しながら鑑賞するか、ICTを用いて画面上で鑑賞するかについては場面に合わせて吟味する必要がある。

(イ) 改善点を踏まえた清書と自己評価

a 実践内容

鑑賞を踏まえて改善案をワークシートに記入し、これを基に清書を行った。最後に、授業のまとめとして自己評価を行った。自己評価の観点は5次の鑑賞の観点の項目と合わせ、生徒が自分の作品の評価と他者の作品の鑑賞を関連付けることができるよう配慮した。

b 効果

何枚も練習を繰り返し、粘り強く課題に取り組む姿が見られたことである。振り返りの活動によって課題を明確にすることができ、他者の意見を聞いて新たな視点を持って臨めた結果ではないかと考えられる。

c 改善すべき点

研究協議で「付箋を読む時間があると良かったのではないか」との指摘があった。実技の途中で見返す時間を設けることで、自己の作品の変容を見取りさらに工夫を凝らす機会となる。また、「机間指導を行う中で、実演をしながら支援を行うと良い」との助言を得た。起筆の運動性や律動性・リズムなどを実演で指導することで生徒の作品制作活動が深まるきっかけとなる。

イ 目標に準拠した評価の工夫

公開研究授業での評価材料はワークシートと完成した清書作品である(図3)。

10月16日
書道Ⅰ ⑫5「漢字仮名交じりの書き学校の魅力を書いて伝えよう」

(6) 振り返り、さらに練り上げる

★A 自分の作品について振り返りをしましょう。

1、イメージと工夫点
例「う」というイメージを(墨の量や濃さ、選んだ書体、紙面構成などの工夫によって表現が、よくというイメージを(墨は濃いめで穂先から鋭く書くことにより表現した。

2、工夫によってイメージを表現できたか(〇で囲む)
とてもよ过来了た・できた・あまりできなかった・まだまだ

★B グループで相互鑑賞を行いましょう。

1、「A」の1・2を伝えましょう。
2、作品を鑑賞し、次の観点で付箋にコメントを書きましょう。
観点①イメージが明確に表現されているか。②工夫が効果的であるか。
③漢字と平仮名が調和しているか。
※良い点と、さらに良くするための工夫を具体的に、最低ひとつずつ!

★C 「A・B」から改善点を考え記入しましょう。

「月」の下の部分の長さと、その上の3本の長さに差を付けて書いた。長さをそろえようと思った。平仮名も鋭く書く。

(7) 自己評価(4:すこよく当てはまる、3:まあまあ当てはまらない)

①イメージに基づいて効果的に表現することができた (4・3・2・1)
②漢字と平仮名の調和について考え工夫することができた (4・3・2・1)
③改善点を考え、試行錯誤を重ねることができた (4・3・2)

改善の結果どのように作品が変わったか等、自分の作品に関して「皆中の心に」の長さをそろえたい、とで統一感を出して平仮名で漢字(主に平仮名)の総括を言えよう、と出したら「皆」といって書くことが、この良さを出すことができた。

評価規準(思①)
漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫している。

評価規準(主①)
自身の表現の意図に基づく表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

評価規準(知②)
目的や用途に即して効果的に表現する技能を身に付けている。

皆中の心に

図3 評価する成果物と評価規準

(7) 「知識・技能」「A表現」②評価の具体

完成した清書作品から見取った。生徒が持っているイメージと改善点を基に、実際に表現することができているかが要点となる。

(4) 「思考・判断・表現」「A表現」①評価の具体

ワークシートの記述と完成した清書作品から見取った。清書作品は5次でGoogle スライド(以下、「スライド」)を制作し、3次で制作した作品が4次の鑑賞活動を通してどのように変容したのかをまとめたので参考資料として記載する(図4)。清書作品を見ると、相互鑑賞において生徒が助言を行いやすい文字の大きさや構成については改善が多くみられたが、線質の工夫についてはあまり変容が見取れなかったものも多くあったのが反省点である。

(ウ) 「主体的に取り組む態度」「A表現」①評価の具体

ワークシートの記述から見取った。特に「改善点」と授業の振り返りで記入した「自己評価」から、粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを読み取る。生徒の記述例(図4)から、自己の課題と向き合い、意図と表現の工夫を結び付けて課題に取り組むことができた生徒がいたことがわかる。生徒がただ漫然と書くのではなく粘り強く課題に取り組むためには、課題を具体的に発見し言語化することが重要であると感じた。


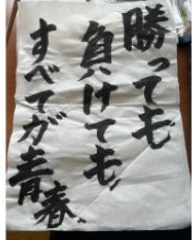
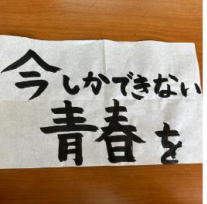
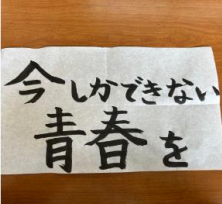
生徒A	生徒B
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>批正前</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>批正後</p>  </div> </div> <p style="font-size: small;">字の太さを変えて楽しさもあつた体育祭に向けての強い意志を表すことができたかな。</p> <p style="font-size: small;">自分の癖(素早くかいたり一角を丸くなど)をすこし活かすことを強めて。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>批正前</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>批正後</p>  </div> </div> <p style="font-size: small;">・平仮名も鋭く書く</p>
<p>●改善案 素早く書く。角を丸くして太くすることで強い意思を表す。平仮名を漢字と平仮名の大きさの差をもう少しつけてもいいかもしれない。</p> <p>●自己評価 「勝っても」を素早く書くことで強調できた。起筆を鋭くして一字ずつハッキリ見せることができたと思う。</p>	<p>●改善案 かっこよくというイメージを表現するために漢字だけでなく、平仮名も鋭く書く。</p> <p>●自己評価 平仮名や漢字の起筆を、高さを出し上から落とし穂先を鋭く書くことで、かっこ良さを出すことができた。</p>

図4 生徒が制作したGoogleスライドと、ワークシートの記述例

ウ 公開研究授業後の展開

5次はまとめを行った。はじめにスライド制作を行い、スライドの一枚目で批正前後の作品をまとめ(図4)、二枚目で学校の魅力を伝えるポスターを制作した(図5)。写真を背景にしてその上に書作品を合成することも可能だが、本研究授業ではあくまで書の表現を鑑賞し、表現の工夫の意図を感じ取ることに重きを置いた。鑑賞の記述に写真に関する感想ばかりが目立つことはなかったため、この方法も一定の効果があったと思われる。この二枚のスライドを基にグループで発表、鑑賞を行った。鑑賞の観点はワークシート5(図1)の「自己評価」の項目とリンクさせ、生徒が自己の作品と他者の作品を比較して考えることを促した。以下は生徒のまとめの感想である。

- *今までの授業でいろいろな書き方や筆の動かし方を学び、いろいろな人の作品を鑑賞する中で、見て思ったことと相手が説明してくれたことが似ていることがあった。少しずつだけ作品が伝えたい内容を感じ取れるようになってきたと思った。
- *かすれや書くスピード、太さなどで印象が変わる。もうちょっと工夫することでもっと自分がやりたかったものになったのではないかなと思う。
- *自分の作品について、もっとたくさんの人の意見が聞いてみたい！でも他の人の作品が見られて自分の作品が思ったより強さがなかったりしたのがよくわかった。
- *写真と組み合わせることで、イメージがわきやすくなった。

表 研究協議での主な意見

	鑑賞(項目アの(ア))	清書(項目アの(イ))	評価(項目イ)	全体を通して
良かった点	・相互鑑賞の付箋の色を統一して、どの生徒にも付箋の内容を理解しやすくした点(授業のUD化)。	・生徒が粘り強く活動していた点。	・作品が変わらなくてもプリントにはよく考えて書いている生徒がいた点。	・授業のはじめに学習活動の見通しを示した点(授業のUD化)。
さらに工夫できること	・相互鑑賞の付箋の内容を深くする。振り返り、具体例の提示を行うと良い。 ・Jamboardを観点ごとに分けるなど視覚的に観点への気付きを引き出す工夫が必要。	・付箋を読む時間を確保する。 ・付箋やポイントで書いていたほど表現が変わっていない。 他者の作品と並べて比べる機会があると良いのではないか。		・目標を明確に伝えるための、指導の焦点化。 ・個別助言の方法。 ワークシートに書いた内容を作品で表現する際にどうフォローするか。

エ 今後の展望

公開研究授業後の研究協議では、特に次表に記載した点について意見が挙げられた。

まず、「全体を通して」記載の「指導の焦点化」とは、指導すべき要点を絞り焦点化することで、学習目標を明確に伝える要点となる。今回の作品制作において生徒たちは構成についても線質についても考えなければならず、目標が散漫になってしまった。これを改善するために、例えば半紙に書くのではなく細長い紙に一行で書かせるなどの工夫ができるとの助言を得た。線質に焦点を当て、構成の要素を除く工夫である。これにより生徒が明確な課題をもって取り組みやすくなるだけでなく、授業者の評価も行いやすくなると考えられる。単元の中でポイントとする学習内容をより際立たせるために、学習内容をいかに精選するかが肝要である。

次に、ICTの活用方法として、作例の提示に有効であるとの意見があった。対象の生徒は今回初めて漢字仮名交じりの書の創作活動を行った。漢字仮名交じりの書の名品をGoogle Classroomに上げていつでも見られる状態をつくることで、生徒が多様な表現方法を知り、創作活動に役立てることができる。

本単元で生徒が粘り強く課題に向き合った成果と過程の事例を図5、図6に掲載する。学習の過程や試作の評価を行うことで指導を円滑に行うことができると実感した。漢字仮名交じりの書の分野に限らず、助言の方法を探究することで生徒が表現方法を工夫することができる授業を展開したい。



図5 生徒の成果物事例

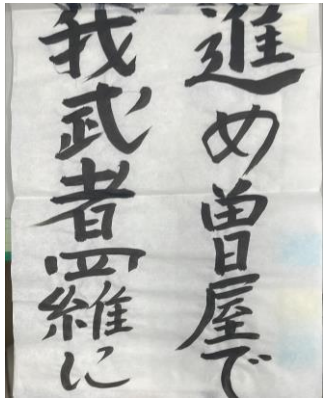
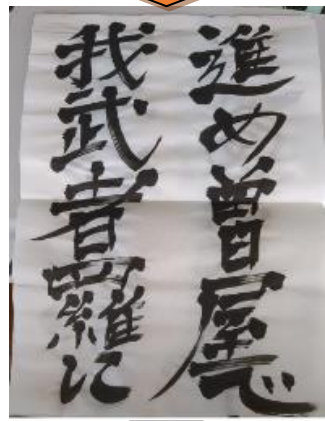
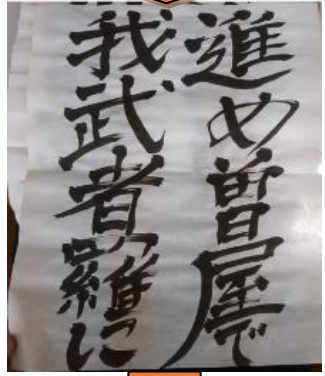

生徒Aの学習の過程(「」は生徒の成果物より抜粋した内容。)	生徒Aの作品
<p>【第2次】 <ワークシート3> (3)学校の魅力を伝える作品作り ・伝えたいテーマ：「陸上部」 ・イメージ：「大きく爽快な感じ」 ・工夫：「太い細い織り交ぜ、墨を濃く、潤濁を出す」</p>	
<p>【第3次】 <ワークシート4> (4)作品を調和させるために(漢字と仮名の線質を振り返る) 「漢字の方が、筆圧が強い。」 (5)試してみよう線質の変化(③筆の弾力を活かし、圧を加える) 「強い印象になった。」 ★改善点 「③で試し書きしたように書くと、力強い印象がありつつ収筆が流れるから疾走感が出て良いと思った。」</p>	
<p>【第4次】 <ワークシート5> (6)振り返り 「力強さを表すために起筆で少し溜めてから書いた。」 <Jamboardグループ員のコメント> 「かすれがもう少しあって良いのではないか。」 「鋭いところがより力強さを表現していて良い。」 <ワークシート5> ★改善点 「墨をつける量を少し減らしてかすれを出せるようにする。」 (7)自己評価 「かすれを増やしたことで疾走感を出すことができた。」</p>	
<p>【第5次】 <ワークシート6> (9)まとめ 「似たようなイメージ(力強さなど)を持っていても、表現の仕方が違っていてもおもしろかった。」 「自分のイメージの力強さと速さ(疾走感)がうまく表現できて良かったです。」</p>	

図6 変容の過程の事例

書道「漢字仮名交じりの書」学校の魅力を書て伝えよう」

組 番氏名

目標

イメージを表現するための効果的な方法について考え、工夫する。

★「漢字仮名交じりの書」とは

漢字と仮名で表記された語句や、詩文(詩・短歌・俳句・小説・歌詞など)を題材とした「生きたことば」を表現できる分野。(光村p108)

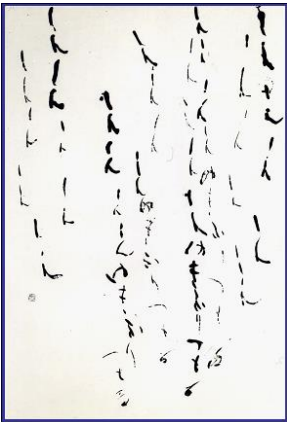
↓現代に生きる私たちにとって」

「分野の書といえる。

①鑑賞

想像力を働かせて作品を鑑賞し、作品制作に活かしましょう。

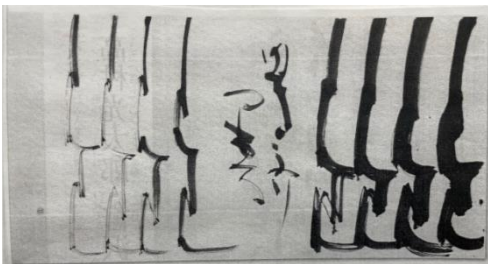
①青木香流 作



○どんな雪？

○なぜそう感じたか
例) (字の大きさまたは配置、線、太さ...)が...だから。

②飯島春敬 作



○どんな雪？

○なぜそう感じたか

③棟方志功 作



○どんな雪？

○なぜそう感じたか

★皆さんはどのような「雪」をイメージしましたか？

”書”で表現する要素？



用具用材、書体や字の大きさ、作品構成などの様々な要素。

書道「漢字仮名交じりの書」学校の魅力を書で伝えよう」2

組 番氏名

②創作

作品を構想して、書いてみましょう。

1、選文(書きたいことば、詩文を選び、今回は左の文を書く。)

雨が降っている(た)

2、イメージ(思い浮かんだ雨のイメージを記入する。)

3、イメージを表現するための工夫(○で囲む。)

①思い切り太く・思い切り細く・太い細い織り交ぜ

②墨を濃く・墨を薄く・中間 ③墨をたっぷり(滲み)・墨を少なく(かすれ)・織り交ぜ

④向勢・背勢 ⑤遅・速・緩・急

・その他工夫↓)

)

4、書体・書風(字典をひく。書体は自由。今回は参考資料有。)

5、構成(草稿づくり。半紙は縦横自由。今回は省略可。筆を動かしながら作品作りを行う。)

縦

横

6、【自己評価】

①表現の違いで印象が変わることを理解できたか(4・3・2・1)
②作品を表現するための工夫をすることができたか(4・3・2・1)

【感想】

「雨」

雨	雨	雨	雨
禮器碑	王羲之	王羲之	虞世南
雨	雨	雨	雨
西嶽華山廟碑	張旭	孫過庭	歐陽詢
雨	雨	雨	雨
曹全碑	米芾	米芾	褚遂良
雨	雨	雨	雨
石鼓文	懷素	蘇軾	褚遂良
雨	雨	雨	雨
說文	文徵明	王鐸	王羲之
雨	雨	雨	雨
說文古籀補	王鐸	王鐸	王羲之
雪	雪	雪	雪
	王鐸	王鐸	王羲之

「降」

降	降	降	降
禮器碑	慎素	歐陽詢	安樂王墓誌
降	降	降	降
說文	孫過庭	褚遂良	董其昌
降	降	降	降
說文古籀補	空海	王羲之	中岳靈廟碑
限	降	降	降
禮器碑	虞世南	高貞碑	高貞碑
限	降	降	降
空海	曹全碑	李懷琳	虞世南
限	降	降	降
米芾			

書道「漢字仮名交じりの書」学校の魅力を書いて伝えよう」3

組 番 氏 名

(3) 創作 学校の魅力を伝える作品作り

★次回授業までの課題

〇〇高校の魅力を中学生に伝えるキャッチコピーを考え、写真を撮る。

- 1、伝えたいテーマを考える。例)「活発に取り組む野球部の様子」
- 2、写真を撮る。例)「放課後の野球部の練習風景」↓グループ共有ドライブに提出。
- 3、キャッチコピーを考える。例)「〇〇で追う 白球」※6〜20 字程度

<p>1、伝えたい魅力、テーマ</p>	
<p>2、写真を撮る(どのような場面の写真を撮るか)</p>	<p>撮影した写真は、グループ共有ドライブに提出してください。</p>
<p>3、キャッチコピー(選文)※6〜20 字程度</p>	<p>4、イメージ 例)おらか、謹厳、〇〇な〜を表現したい…など。</p>
<p>5、イメージを表現するための工夫(〇で囲む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 思い切り太く・思い切り細く・太い細い織り交ぜ ② 墨を濃く・墨を薄く ③ 墨をたっぷり(滲み)・墨を少なく(かすれ)・織り交ぜ ④ 向勢・背勢 ⑤ 遅・速・緩・急 	
<p>6、書体・書風(字典を引く。書体自由。字典のページをメモしスケッチを取る。)</p>	<p>7、構成(草稿づくり。半紙は縦横自由。毛筆で試作を先に行っても良い。)</p>

書道 「漢字仮名交じりの書」学校の魅力を書いて伝えよう」4

組 番 氏名

(4)「漢字仮名交じりの書」の作品を調和させるために

1、漢字と平仮名それぞれの字の大きさは現在どのようになっているか(○で囲む)
漢字の方が大きい・漢字と平仮名が同じくらい・平仮名の方が大きい

2、漢字と平仮名それぞれの線質は
現在どのようになっているか



線質…用具用材の特性や、用筆(筆の使い方)から生まれる線の趣。
用筆…起筆・運筆・収筆における、筆や穂先の動かし方。

★特に、起筆に着目してみましょう。
起筆の 角度、筆圧、高さ はどうか

3、現在の作品の調和度数?(4:調和している、1:調和していない)(○で囲む)

4・3・2・1

(5)試してみよう線質の変化(①~⑥を試し、その結果どのような印象になったかを記入する。)

線の工夫	起筆の工夫
④思い切り太・細(配置そのまま)	①穂先から鋭く
⑤かすれを入れる(墨を補わず一気)	②穂先を巻き込むように
⑥速度を変えて(配置そのまま)	③筆の弾力を活かし、圧を加える

★(4)、(5)を踏まえた改善点(イメージを表現するための工夫)

例)漢字の起筆を丸く書いたが平仮名は鋭くなってしまったので、どちらの起筆も丸く書く。など

書道「漢字仮名交じりの書」学校の魅力を書いて伝えよう」5

組 番氏名

「

(6)振り返り、さらに練り上げる

★A 自分の作品について振り返りをしましょう。

1、イメージと工夫点

例「〜というイメージを（墨の量や濃さ、選んだ書体、紙面構成などの工夫）によって表現した。」等。

2、工夫によってイメージを表現できたか（○で囲む）

とてもよくできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ まだまだ

★B グループで相互鑑賞を行いましょう。

1、「A」の1・2を伝えましょう。

2、作品を鑑賞し、次の観点で付箋にコメントを書きましょう。

観点①イメージが明確に表現されているか。 ②工夫が効果的であるか。

③漢字と平仮名が調和しているか。

※良い点と、さらに良くするための工夫を具体的に、最低ひとつずつ！

★C 「A・B」から改善点を考え記入しましょう。

(7)自己評価(4:すごくよく当てはまる 1:まったく当てはまらない)

①イメージに基づいて効果的に表現することができた (4・3・2・1)

②漢字と平仮名の調和について考え工夫することができた (4・3・2・1)

③改善点を考え、試行錯誤を重ねることができた (4・3・2・1)

改善の結果どのように作品が変わったか等、自分の作品に関して

書道「漢字仮名交じりの書く学校の魅力を書で伝えよう」6

組 番 氏名

⑧鑑賞

次の観点で他者の作品を鑑賞しましょう。

D		C		B		A		発表者 氏名
良い点	4・3・2・1	良い点	4・3・2・1	良い点	4・3・2・1	良い点	4・3・2・1	ある ①イメージが明確で ②工夫が効果的である ③漢字と平仮名が調和している
	4・3・2・1		4・3・2・1		4・3・2・1		4・3・2・1	
	4・3・2・1		4・3・2・1		4・3・2・1		4・3・2・1	

⑨まとめ

鑑賞を通して感じたこと学んだこと・自分の作品について・

写真と書作品を合わせて作品を作る学習について